

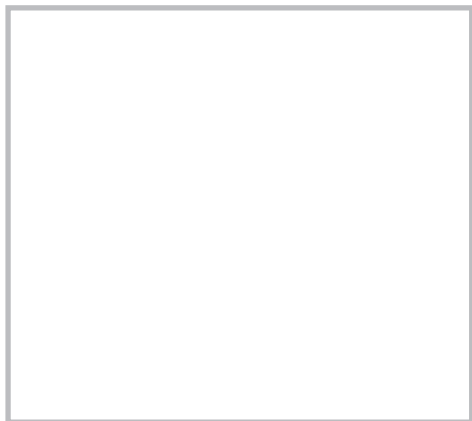


図 25.17 癬風 (pityriasis versicolor, tinea versicolor)

図 25.18 *Malassezia* の KOH 光学顕微鏡像
癬風でみられた鱗屑のパーカーインク加 KOH 法で
Malassezia の短い菌糸と球状の胞子が観察される。

Malassezia 属による
皮膚疾患

MEMO

c. マラセチア感染症 *Malassezia* infections

1. 癬風 ^{でんぷう} pityriasis versicolor, tinea versicolor ★

Essence

- 酵母様真菌の一種である *Malassezia* 属 (とくに *M. globosa*) による浅在性の感染症である。
- 青年男女に好発し、体幹上部などに 1～3 cm 大の淡褐色斑あるいは脱色素斑をきたし、多発融合する。
- 皮疹をメスの先などでこすると、大量の鱗屑を生じる (カンナ屑現象)。
- 診断は鱗屑の KOH 直接鏡検法や ^{ウッド} Wood 灯検査 (黄橙色蛍光) などによる。

症状

体幹に好発、上腕や頸部にもみられる。5～20 mm 大の淡褐色斑あるいは不完全脱色素斑として初発し (図 25.17)、これが次第に拡大および融合して、まだら状の外観を呈する。褐色斑をつくるものを黒色癬風 (俗称“くろなまず”, pityriasis versicolor nigra), 脱色素斑をつくるものを白色癬風 (pityriasis versicolor alba) という。病変は平坦であり、単なる色素異常のようにみえるが、爪先やメスの先でこすると大量の枇糠様落屑を認める (カンナ屑現象)。自覚症状はないか、あっても軽い発赤や瘙痒がみられる程度である。

疫学・原因

Malassezia は脂漏部位に常在する二相性真菌で、球状の胞子と短い菌糸をもつ。発汗量の増える春～夏にかけてみられ、思春期以降、とくに 20 歳代前後の男女に好発する。本症で色素異常を生じる原因は不明だが、*Malassezia* 由来産物がメラノサイトやチロシナーゼ活性に異常をきたすと考えられている。

検査所見・診断・鑑別診断

KOH 直接鏡検法で鱗屑を観察すると、特徴的な短い菌糸と球状の胞子が観察され (“spaghetti and meatballs” appearance, 図 25.18), 診断には必須である。そのほか、鱗屑やカンナ屑現象の有無、紅斑の状態、皮疹の経過などを参考にし、尋常性白斑、単純性枇糠疹、^{ジベル}Gibert ばら色枇糠疹、偽梅毒性白斑などと鑑別する。また、病変部に Wood 灯を当てると黄橙色の蛍光がみられ、病変の広がりを確認することができる。

治療

イミダゾール系抗真菌薬の外用により、2週間程度で比較的容易に治癒する。夏季に再発することが多い。治療後も色素異常が年余にわたり持続することがある。

2. マラセチア毛包炎 *Malassezia folliculitis*

Malassezia 属に起因した毛包炎で直径2～3mmの毛孔性紅色丘疹である（図25.19）。ときに小膿疱を伴う。瘙痒や疼痛があり、癬風や脂漏性皮膚炎に合併することもある。思春期男女の上背部などに好発する。尋常性痤瘡や毛包炎、膿疱型薬疹と鑑別を要する例がある。KOH直接鏡検法（ズームブルー®などの色素をもつ検査液を用いて胞子を確認）で診断。抗真菌薬によく反応する。

図25.19 マラセチア毛包炎 (*Malassezia folliculitis*)

B. 深在性真菌症 *subcutaneous mycoses*

1. スポロトリコーシス *sporotrichosis* ★

Essence

- 日本で最も頻度の高い深在性真菌感染症。
- 土中の菌が微小外傷を介して侵入、農業従事者や幼小児に好発。
- 紅色の丘疹および膿疱が初発。硬い皮下結節や潰瘍を形成。
- 病理組織学的には星状体をもつ肉芽腫がみられる。スポロトリキン反応陽性。
- イトラコナゾールなどの抗真菌薬、ヨウ化カリウム内服や温熱療法が有効。

症状

8～30日の潜伏期を経て、菌の侵入部位に一致して紅色の丘疹、膿疱が生じる（図25.20）。次第に増大し、約4cm大までの浸潤を伴う暗赤色の皮下結節となる。この結節は自潰しやすく、難治性の潰瘍を形成する。潰瘍を形成すると軽度の疼痛を伴うことがあるが、通常自覚症状はない。リンパ管に沿って上行性に、数日ごとに病変が増加する（皮膚）リンパ管型（lymphocutaneous form）が最も多い。そのほか、単発の病変が拡大して巨大な潰瘍局面を形成する限局型（fixed form）や、真菌の播種によって全身に皮下結節を生じる播種型（disseminated form）がある。リンパ管型は成人の手背から前腕に、限

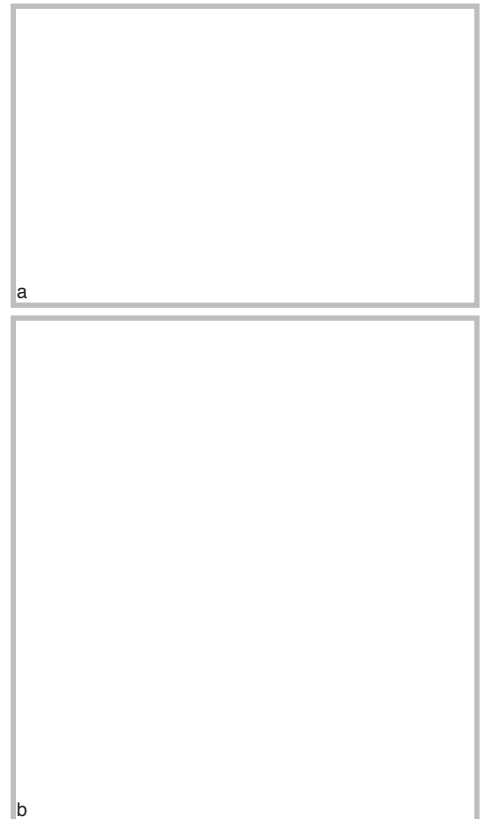


図25.20① スポロトリコーシス (*sporotrichosis*)
a：スポロトリコーシスは、温帯地域に好発する。本州以南には多いが北海道では少ない。これは北海道第2例目の写真である。b：下腿部。